

学年部会	テーマ「情報活用の実践力 映像部会・6年」
実践内容	「映像活用の実践力を高めていく取り組み」
教科・単元名	6年 総合的な学習の時間 「明日に向かって／キャリア」

1. 実践活動のねらい

これまでの総合的な学習の時間では、福祉に対して考え方を広めたり、環境を守る取り組みとして今自分ができることに一生懸命取り組んできたが、中には「自分ごと」ではなく、「学習の中のこと」という意識の児童もおり、今の自分の生活とのつながりを感じられずに継続して行うという点においてはできていない部分もあった。そこで、今の自分を見つめ、友達と関わり合うことで一人ひとりに自己肯定感をもたせ、「明日」に向けて、「自分ごと」として、「今何ができるのか」を考え、行動に移せるようになってほしいと考えた。これを実現するために、映像を活用し、「あらかず」活動を行う。新しい方法で「あらかず」活動を行うことで、興味をもって取り組むことができ、積極的に行動する力を身につけさせたいと考えた。また、本単元に限らず、日々の生活の中でも映像活用の実践力を高めていきたいと考えている。

2. 実践の内容・経過

「キャリア」という大きなテーマの下に課題を解決する過程を繰り返していく。探究活動1では、自己分析をすることで今の自分を知る活動を行う。探究活動2～4では、かわさきマイスター、様々な職業で活躍される方々や身近な人々が働くことについて真剣に語る姿に触れ、その中から感じたことを自分の言葉で表現する。そして、探究活動5では、ドリームムービーを作成する。今の自分にできることは何なのかを一人ひとりが具体的に考え、明日から実践できることをビデオカメラに向かって宣言する。また、友達の宣言を聞くことで、互いの良さを知ったり、努力を続けていったりするきっかけになってほしいと考えている。

■具体的な手立て

(1) 映像の利便性に気づかせるために

●映像の可能性について考える。

まず、これまでの総合的な学習の時間で行ってきた探究活動のまとめ、「あらかず」の活動がどのようなものだったかをふり振り返り、レポートの形式や模造紙でまとめる形が多かったことに気づかせる。それを踏まえて、小学校生活最後の「あらかず」の手段として、子供たちが取り組みたい方法、より自分の思いを伝えることができる方法について話し合った。ホワイトボード・ミーティングの手法を取り入れ、班で意見交流を行った。その結果、映像を使って「あらかず」と、「自分の思いがより伝わりやすい」「声と動きはより身近なものを感じる」「つくっている人も観ている人も楽しい」という映像の可能性についての意見がどの班からも出てきた。子供たちが映像での「あらかず」活動の可能性を知っておくことで、実際の活動に生かせるようにした。



↑ホワイトボード・ミーティングの手法を取り入れ、意見交流を行った様子

●学年全員で映像を共有する。

友達の宣言を聞くことで、互いの良さを知ったり、努力を続けていったりするきっかけになってほしいと考える。また、共通の夢をもっていたり、「今」実践していることが似ていたりする友達を知ることで、小学校生活最後の時間でより多くの友達とコミュニケーションをとるきっかけになって欲しいと願う。さらに、下小田中小学校では、卒業式の呼名時に「未来や近未来」について話す場面があるので、この活動を経て、卒業式では自信をもって発表できるようにしたいと考えている。

(2) 映像を活用することの面白さを知るために

●ビデオカメラを積極的に利用する。

ビデオカメラの扱い方が分からなかったり、撮影することに抵抗があったりするのは自分の思いを上手く表現することができないので、ビデオカメラを身近に感じられるように係活動のお知らせや転校する友達へのお別れメッセージなどで積極的に利用した。また、年度初めに、「いつでもだれでも、みんなの楽しい様子をこのビデオカメラに残すことができる。」と伝えた。「先生、撮影したいものがあります。良いですか?」と聞き、自らビデオカメラを手にとって撮影することの面白さに気づいた子供が多くいる。ビデオカメラで撮影することを身近に感じられるようになっていた。

●日常的に映像の活用を行う。

映像を身近に感じ、視覚からの情報を手掛かりに学ぶ子供たちがとても多い。そこで、どの学習においても、映像の活用を積極的に行うことを意識してきた。特に、NHK for School を活用した。社会の歴史の学習では手元の資料だけではなくクリップ映像を活用することで子供達の学習に対する意欲が増した。体育の学習では正しい跳躍の仕方、フォームなどの確認を行った。実際にハードル走の学習を行った際には、「小学生が跳んでいる様子が見たい。」という意見があり、ハードル走の全国大会の様子を視聴した。そして、自分達のフォームの確認のためにはタブレットの動画撮影機能を使った。この総合的な学習「明日に向かって」でも、「インタビューのしかた」を視聴し、インタビューで人に話を聞く時の質問のしかたやメモの取り方を学ぶことができた。

(3) 映像制作を通して計画性や協調性を身につけさせるために

●ワークシートや「ビデオカメラを上手に使おう」を活用する。

映像での「あらわす」が出来上がるまでの企画→撮影→編集→上映会までのプロセスを体験的に学べるように子供たちにもわかりやすいワークシートを利用する。企画の段階では、絵コンテを記入するワークシートを扱い、何を・いつ・どこで・どの順番で撮影するか撮影計画を立てられるようにする。限られた時間の中でいかに効率的に撮影するかという計画性を身につけることができた。また撮影の事前指導を行った際には、情報研究会が作製した「ビデオカメラを上手に使おう」を活用し、ビデオカメラの基本操作を教えた。全員が撮影の仕方を知ること、計画的にかつ効率よく活動を進めることができた。

●グループ活動を一人一役で行う。

4～5人のグループで撮影の活動を行った。ビデオカメラを使って撮影を行う役、ビデオカメラ側で合図を出す役、周りの環境を整える役、エキストラ…と一人ひとりに役を与えることで、友達の「あらわす」活動にも協力することになり、よりよいものをみんなで作っていきこうという協調性を身につけることができる。

3. 考察・成果や課題

この学習を通して、これまでの文字や写真を使つての「あらわす」方法以外にも、ビデオカメラで撮影した映像を使つての「あらわす」方法があるということを知ることができ、「今後に生かしていきたい」「状況に応じて様々な『あらわす』方法を選択していけるようになりたい」と思う子供が多くいた。また、映像の利便性に気づくだけではなく、「より相手に伝わりやすい」「撮ること・観ること、どちらも楽しい」というような他の映像の良さにも気づいた子供がたくさんいたのは、とても嬉しいことであった。単元の最後には、クラスごとに制作した「ドリームムービー」を見合い、クラスの全員にいきわたるようにメッセージを送るようにする。そのメッセージを読むことで、さらに夢や希望をもてるようになり、「明日」につながっていくのではないかと考えている。

今後は、ビデオカメラや動画を使つた学習の可能性をより広げていきたいと思っている。そのためにも、多くの教員にビデオカメラやデジタルカメラの動画撮影機能などを抵抗なく使い学習に取り入れていって欲しいと考える。まずは、校内のビデオカメラの操作マニュアルや編集のしかたマニュアルなどをつくっていく必要があると感じた。

間もなく卒業していく子供たちには、様々な「あらわす」方法を1つ1つ検討し、より良い手段を選び、自分の思いを分かりやすく「あらわす」ことができるようになって欲しいと願っている。